

二〇二四年四月一九日

夕闇に棚の白藤揺れやまず
むべ

カフェテラス白き卓布へ若葉影
康子

花屑をつけしバイカー道の駅
かえる

朝窓を繰るや眼福新樹光
澄子

神木を鎧ひし蔦の芽吹きけり
澄子

三輪山の薄雲払ふ桜南風
明日香

二〇二四年四月一八日

戻り来し猫の額に桜蕊
澄子

藪椿おちよぼ口から蕊のぞく
かえる

鯉のぼり茅葺屋根に大家族
康子

二〇二四年四月一七日

磯の香に深呼吸して春惜しむ
千鶴

仏手石の指の長さよ花の冷
なつき

先生に桜蕊降る離任式
みきお

朝風におしやべりやまぬ若楓
むべ

ネモフィラの丘駆けめぐる疾風かな
康子

両手あげ拙き歩み花吹雪
ぼんこ

二〇二四年四月一六日

春祭子ども歌舞伎の朗々と
山椒

十字架の塔抽んでし花の雲
かえる

ニタ三言交はし池塘の春惜しむ
澄子

飛花の渦落花の渦やつむじ風
むべ

玻璃窓を今ぞと叩く春の電
せつ子

二〇二四年四月一五日

薫風の岬鼻なる観覧車
みきえ

花下微笑せる一門の女流どち
かえる

二〇二四年四月一四日

抽んでて蒼天支ふ楠若葉
ぼんこ

夕風に小袖振るやう白あやめ
むべ

須磨なれや白帆浮かべし沖のどか
わかば

祈祷殿出づる赤子に花吹雪
康子

二〇二四年四月一三日

花冷えや阿修羅の頬に紅さして
たか子

袖口をひと折内へ入園児
智恵子

水脈引きて行き交ふ船や風光る
みきえ

毎日句会みのる選・二〇二四年四月二日